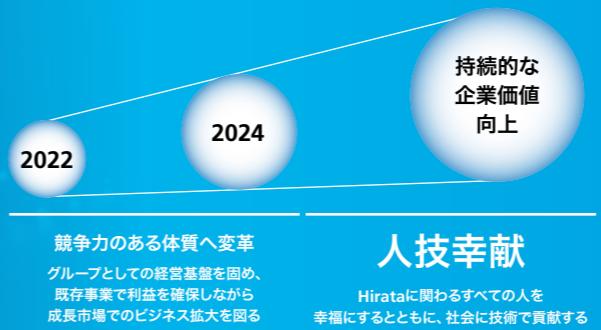


中期経営計画(2022–2024年度)

中期経営計画(2022–2024年度)の位置付け

現中期経営計画の策定に当たっては、創業の精神である綱領と経営理念を見つめ直し、「Hirataに関わるすべての人を幸福にするとともに、社会に技術で貢献すること(=人技幸献)こそ当社の使命であると考えました。

「人技幸献」の考え方に基づき、中期的には、グループとしての経営基盤を固め、既存事業で利益を確保しながら成長市場でのビジネス拡大を図り、競争力のある体質へ変革することを目指し、4つの基本方針を定めました。



経営指標

	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 目標	2024年度 予想
売上高	784億円	828億円	1,000億円	1,000億円
営業利益	59億円	60億円	100億円	75億円
営業利益率	7.5%	7.3%	10.0%	7.5%
ROE	7.5%	7.0%	11.0%	–

2023年度は、資本コスト(WACC)6.1%を上回る投下資本利益率(ROIC)6.3%を確保しました。

基本方針と主な施策

収益性強化

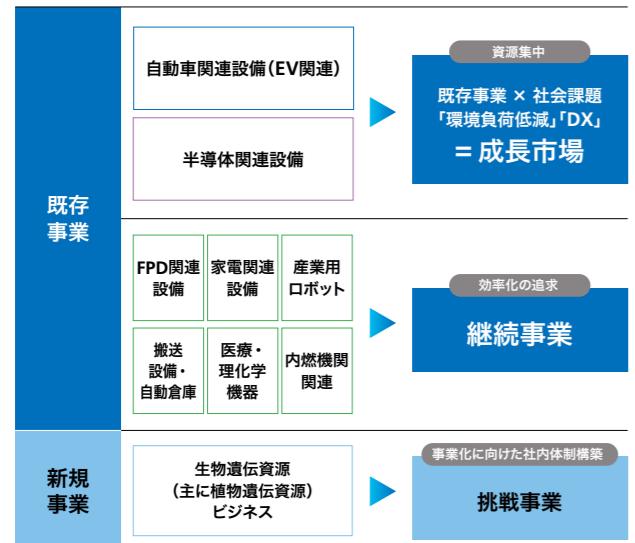
基本方針 1 成長市場でのビジネス拡大

既存事業については、環境負荷低減、DXといった社会課題を追い風とする成長市場に対応する事業とそれ以外の事業に分類しました。

特にEV(電気自動車)、半導体という2つの市場を成長市場と位置付け、資源を集中させるとともに、FPD、家電など他の事業を継続事業として効率化を追求します。

また生物遺伝資源(主に植物遺伝資源)に関するビジネスを挑戦事業と位置付け、事業化を見据えた社内体制構築に努めます。

各事業の中期経営計画期間の位置付け



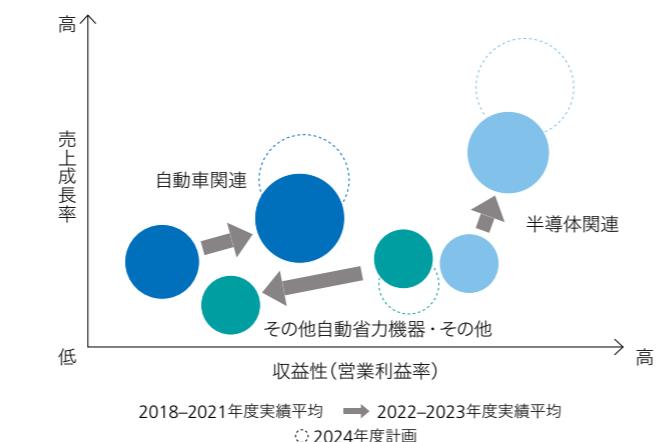
経営基盤強化

基本方針 2 グローバル企業としての競争力強化

EV・半導体といった成長市場で利益を拡大するための「グローバル対応」として、各ビジネスユニットと関連会社の事業連携を最適化し、受注・開発・生産体制などにおいて相乗効果を生み出します。

また、競争力強化のための「事業取り組み」として、フロントローディングに取り組みます。各部門が連携し合い、プロジェクトの初期段階で、引合の内容についてリスクを洗い出し、計画対応することで、利益を拡大します。DX推進により、この活動をさらに強化していきます。

ポートフォリオのイメージ



(注) 矢印の起点側のパブルが2018–2021過去4事業年度の実績平均、終点側のパブルが2022–2023年度の実績平均を表す。点線のパブルは、2024年度計画を表す。パブルの大きさは売上規模を表す。本事業成長計画は、2022年度から変更した新開示セグメントの製品区分に基づく。

ESG経営の取り組み強化

基本方針 3 ESG経営の取り組み強化

事業成長と社会課題の解決の両立に取り組み、企業価値の向上を図るため、サステナビリティ基本方針の策定とマテリアリティの特定、当社理念体系と企業価値との関係性の整理を行いました。現中期経営計画期間中にマテリアリティごとの目標を設定するなど具体的なロードマップを策定していきます。

▶ 詳細はP.34「サステナビリティマネジメント」をご覧ください。

- <Hirataグループのマテリアリティテーマ>
- Ⅰ. 気候変動への対応
 - Ⅱ. 持続可能な社会の構築
 - Ⅲ. 人を活かす
 - Ⅳ. 経営基盤の強化

基本方針 4 ニューノーマル時代に即した経営の実現

既存の3D設計データをそのまま取り込み、VR空間上で装置を確認しながら打ち合わせできるCADVR、開発システムのCADデータと産業プログラムを実機レスでシステム検証するエミュレータ、あらゆる製造工程をデジタル化・数値化・見える化して24時間連続で稼働可能な工場を目指すIoT、といった業務のDX推進により、お客さまと社会に対する提供価値を拡大します。



基本方針における成果と課題

	2022–2023年度の成果 (実績)	2024年度の成果 (見通し)	今後の課題
収益性 強化	<p>基本方針 1 成長市場での ビジネス拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> EV(電気自動車)、 内燃機関車双方で 大型受注拡大 七城・関西工場で 生産能力拡大 バッテリー向け キーデバイス開発進行 がん治療装置に 参入・業務提携 植物遺伝資源研究で 機能性を評価する 設備・機器・ソフトを 揃えたラボ完成 	<ul style="list-style-type: none"> バッテリー専門部署 新設による新分野への 移行・製品開発の加速 半導体後工程の自動化・ 標準化への参画(SATAS) がん治療装置の 量産向け開発 植物遺伝資源研究で 事業化へ移行 (製品開発支援サービス 「ぶらんつプロ」で 事業化を判断) 	<ul style="list-style-type: none"> 売上高1,000億円規模に 安定的に対応できる 生産能力の確保 (設計・製造オペレーション 効率化・増強) 資産(事業用固定資産・ 運転資本)効率性の 向上により キャッシュ・フロー改善
	<p>基本方針 2 グローバル企業 としての 競争力強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 中国における関係会社で 半導体関連の受注拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 関係会社で 半導体関連の受注拡大 (マレーシアを加える) グループ全体の事業成長・ リスクマネジメント、 内部統制システムの 高度化・適正化に向けて、 関係会社との対話進行 	<ul style="list-style-type: none"> 本社機能および 各関係会社の 役割・責任・権限と、 紐付く地域戦略の合意形成 本社と連携がなく 業績低迷する関係会社に に対する再編および本社関与
経営基盤 強化	<p>基本方針 3 ESG経営の 取り組み強化</p> <ul style="list-style-type: none"> サステナビリティ推進委員 会でマテリアリティごとの 議論・報告および 取締役会を監督する ESG推進体制を構築 国際的な規範・ルールを 踏まえた「Hirataグループ 行動規範」制定 EcoVadis社の ブロンズ評価獲得 気候変動への対応として CO₂排出量算出方法決定 および中間指標検討 「人権方針ガイドライン」 策定およびアセスメント の実施 	<ul style="list-style-type: none"> サステナビリティの 方向性の定義付け、 活動ロードマップ策定 (KPI策定)、社内理解浸透 CO₂排出量の把握・削減 「エコ電動シリーズ」 ラインナップ拡充 	<ul style="list-style-type: none"> 関係会社への 活動浸透およびKPI評価 CO₂排出量 (Scope3含む)把握の 仕組み確立と詳細目標設定 環境負荷低減、 省エネ推進製品の拡大 人材戦略の経営戦略・ 事業戦略と連動した検討
	<p>基本方針 4 ニューノーマル時代 に即した経営の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> 基幹業務をカバーする 情報システム(PLM、ERP) 導入検討進行 エミュレータの活用分野 拡大と機能向上 物流解析(シミュレータ)の 活用が進行 組立メンテナンスAR 作業マニュアルの試験導入 	<ul style="list-style-type: none"> 基幹システム2026年度 本稼働に向けた検証 AR作業マニュアルを ヒラタフィールドエンジニア リング株式会社で試験導入 ソフト標準化の検討が進行 	<ul style="list-style-type: none"> PLMの業務運用検討、 3Dモデル整備、 データ移行の進捗遅れ挽回、 ERP連携 AI・RPAの検討 (設計業務など)、 AR導入部門拡大 ソフトウェア技術の強化へ 論点整理(組織体制含む)